

2020年7月29日

伊丹市教育長  
木下 誠 様

全国学力・学習状況調査の中止について（申し入れ）

貴職におかれましては、伊丹市の教育環境改善に向けて日々ご尽力いただき誠にありがとうございます。さて頭書の件ですが、今年度の全国学力・学習状況調査を国は中止を決めました。しかし伊丹市教育委員会は、各学校で教職員監督のもと実施し、採点し、分析し、報告せよという指示を出しました。この件につきまして、以下のような多くの問題点があると考えますので中止を申し入れます。

- ①調査の対象学年である小6と中3は夏休みが実質1週間に短縮され、授業時間を確保しようとしているのに、授業を3時間つぶして学力調査をするのは矛盾している。
- ②長期間のステイホームによって児童生徒は大きなストレスをため込んでいる。長時間のテストによって、さらにストレスを与えるのは時期的に不適切。
- ③学校は今年度、プール学習、宿泊学習、体育大会などの楽しい行事がなくなり、調理実習や合唱などの学習もなくなっている状態で息が詰まるような時間が多い。そんな状況下の児童生徒に3時間のテストは負担が大きい。
- ④3か月の休校があり、本格的な授業再開から約1か月である。現場の教職員からは、児童生徒がなかなか本調子に戻らないという声を聞く。保護者からも、家でイライラしているという声をよく聞く。そんな状況で「例年と同じ条件で実施」しても実力が発揮できるとは思えない。
- ⑤調査実施後は、各校の教職員で採点することになるが、ア、記述式問題などは採点基準の統一が難しい。イ、新型コロナ対応で多忙化している現場には負担が大きい。
- ⑥さらに採点後は弱点の分析をして市教委に報告せよとの指示だが、ア、教職員は、個々の弱点を普段の授業やテストで把握している。イ、分析にかかる時間が教職員の多忙化に追い打ちをかける。

⑦実施、採点、分析による教職員の多忙化は、授業準備やノート点検の時間を奪う。  
ア、それは児童生徒の利益にならない。

⑤昨年は時間切れの児童が多かったので、本番通りの状況下でやらせたいとのこと。  
ア、それは逆に難問に対して粘り強くとりくんだ結果ではないか。  
イ、今年の小6にシミュレーションさせても来年は調査対象ではない。

⑥出題内容は「思考力」「表現力」を求めているので、教職員への啓発にもなるとのこと。  
ア、それなら各校で研修会を開いた方が効果的ではないか。

提出者

伊丹市議会議員

フォーラム伊丹 保田憲司

伊丹市議会議員

創政会 新内竜一郎

伊丹市議会議員

日本共産党伊丹市議会議員団 上原秀樹

別紙：教職員のアンケート